



金賞

サウンドバータイプTV用オーディオ  
(10万円以上15万円未満)

サウンドバー

# JBL BAR 1000

¥OPEN(直販サイト価格¥143,000/税込)

SPEC ●総合出力：880W ●スピーカー構成：7.1.4ch ●接続端子：HDMI出力×1(eARC対応)、HDMI入力×3、光デジタル音声入力、LANほか ●外形寸法：1194W×56H×125Dmm(サウンドバー部/リアスピーカー装着時)、155W×56H×125Dmm(リアスピーカー/1台)、305W×440H×305Dmm(サブウーファー) ●質量：約6.5kg(サウンドバー部/リアスピーカー装着時)、約1.4kg(リアスピーカー/1台)、約10kg(サブウーファー)

受賞理由

2つの充電式ワイヤレス・リアスピーカーをサウンドバーと一体化させた、気軽にリアルサウンドを実現できる、ホームシアターシステムに対して

テレビシアター大賞



本体から分離して完全ワイヤレスのリアスピーカーに!

POINT



合体分離型スピーカー

サウンドバー本体の左右に、バッテリー内蔵のワイヤレスリアスピーカーがドッキングされています。より本格的なサウンドを味わいたいときだけ、これを取り外して視聴位置の後方に設置できる仕組みです。



MultiBeamテクノロジー

音をビーム化して、壁に反射させ、前後左右の音の広がりをつくりだすJBL独自の高音質技術「MultiBeamテクノロジー」を搭載。リモコンボタンを5秒長押しするだけで、3分もかからず室内の音響環境が測定できます。



合計15基のスピーカー

サウンドバー部にウーファー5基とツイーター3基とインネブルドスピーカー2基、各サラウンドスピーカー部にツイーター1基とインネブルドスピーカー1基、サブウーファーにウーファー1基、合計15基のスピーカーを内蔵しています。

## 映画館の音をリアルに再現

# この手があったか! サウンドバー革命

米国JBLから後方に置くべきサラウンド用のリアスピーカーを一体化、分離させることもできる、革新的なサウンドバーが誕生しました。本格仕様のドルビーアトモスの立体音響を身近にする、注目のアイテムです。



JBLサウンドらしい風格漂う  
立体音響効果と高音質

VGP審査員 鴻池賢三(ライフスタイル分科会 座長)

本機は、完全ワイヤレスで利用できるリアスピーカーとサブウーファーがセットになったサウンドバーです。画期的なのは、充電電池を内蔵し、コンセントへの接続も不要なリアスピーカー。サウンドバーに合体させるだけで充電でき、専用のワイヤレス伝送で接続も簡単です。コンテンツを本格的に楽しみたい時だけ、リアスピーカーを設置する使い方ができます。サラウンド効果としては、フロントバー部とリアスピーカーの両方に、天井に向けて音を放つインネブルドスピーカーを搭載し、サブウーファーと合わせてリアル7.1.4ch環境を実現できます。多彩な機器が接続できる3系統のHDMI入力、eARC対応のHDMI出力、Wi-Fi6対応のネットワーク機能など、最新スペックを備えているのもポイントです。

実際のサラウンド効果と音質も最高峰。後方からの包み込まれ感は、リアルサラウンドだからこそこの領域。壁反射を利用するサラウンド技術「MultiBeam」テクノロジーによって、左右の音の移動感も鮮明に味わえるほか、インネブルドスピーカーの効果によって上下方向の音の広がりも感じられて立体的。サブウーファーによる迫力もJBLサウンドの風格を感じます。リビングを本格シアターに変える製品として、「テレビシアター大賞」が授与されました。



迫力のある低音域  
ハリのある中高域

VGP審査員 岩井 喬  
(ライフスタイル分科会 副座長)

15基のスピーカーユニットをダイナミックに鳴らし切る、総合880Wの大出力は、サウンドバーの概念を超えた物量投入型ならではの没入感溢れるサラウンド体験をもたらしてくれます。映画館でも広く用いられているJBLならではの勘所を掴んだサウンドチューニングがなされており、サブウーファー帯域とのクロスオーバーも非常にシームレス。量感の豊かさだけでなく、芯のある低音の密度感も適切に引き出しています。中高域の張り出し感にはSEの輪郭、セリフの明瞭度の高さに繋がっており、ドルビーアトモスの上方向から聴こえるサラウンド音もメリハリよくすっきりと表現。このハリがあって浸透力のある中高域の音色もJBLサウンドが持つ魅力の一つです。



音場補正が強力だから  
サラウンドがリアル

VGP審査員 海上 忍

この製品を際立たせている要素の1つが「MultiBeam」テクノロジー。サラウンド成分を含む音のビームを壁に向けて放射、その反射音を利用して左右・後方からの音を表現します。バーからリアスピーカーを分離して使うときはもちろん、装着したままの「1本バー」でも広大なサラウンドサウンドを楽しめるのは驚きです。視聴位置に応じた音場を最適化するルームキャリブレーション機能の効果もあり、その包まれ感はかなりリアル。ドルビーアトモスにも対応するから、ヘリコプターが頭上を通るシーンや背後からの銃撃シーンも再現できます。再現度でいえばリアスピーカー使用時が上回るものの、スポーツ試合の生中継など設置にかかる時間が惜しいとき役立つはずはあります。



2つのスタイルで  
普段使いと非日常を

VGP審査員 野村ケンジ

カタチや使い勝手はまさしくサウンドバーなのですが、そのアイデアは格別。普段はテレビの音をよくなるシンプル一体型スピーカーとして、そしてアクション映画を見たいときなどはリアスピーカーを分離して本格サラウンドで、という使い分けができてしまう、なんとも魅力的な製品です。物量投入が半端ではなく、スピーカーの数はサブウーファー含めて15基も搭載していて、アンプの総合出力は880Wにものぼります。シンプルな見た目からは想像ができない迫力のあるサウンドで、「羊の皮をかぶった狼」と形容したくなるほどです。ドルビーアトモスで活躍するハイトスピーカーも4基用意されていて、上下方向のサラウンド表現も充実しています。



これぞ劇場級!  
背後まで音が回る

VGP審査員 折原一也  
(ライフスタイル分科会 副座長)

リア分離・合体というユニークなギミックを搭載する7.1.4chサウンドバーJBL「BAR 1000」。ポイントはリアスピーカーがバッテリー内蔵で配線不要であること。サウンドバーと一体型にすれば、バッテリー充電ができます。サブウーファーとの接続もワイヤレスで、設置性は一般的なサウンドバーとほぼ一緒という所も革新的です。実際にリアを分離・設置して『スパイダーマン:ノーウェイ・ホーム』を体験すると、マルチバース出現のきっかけとなった魔術のシーンも完全に、効果音が背後まで回り込み、空間が広がる劇場級のサラウンド体験。サウンドバーの限界を技術とアイデアで突破した、テレビシアター大賞にふさわしいホームシアターシステムです。



使い勝手のよさも  
追求されている

VGP審査員 高橋 敦

合体分離型サラウンドスピーカーという強烈トピックが目立つ製品ですが、高評価としたのは日常的な使い勝手を左右する細部の作り込みもしっかりしているからこそ。様々な機器とつなぐたいマニア層の要望にHDMI入力3系統で応えつつ、eARC対応HDMI端子も用意。一般的なユーザーはそちらの端子で本機とテレビをHDMI接続するだけでOKです。シンプルにまとめられつつ低音やサラウンドの調整もさっと実行できるリモコン、操作へのレスポンスを自然に確認できる本体ディスプレイなど、操作性への配慮も万全。その使いやすさの上で音を聴けばサラウンドSPとSWを備えるフルセットシステムならではの広く厚い音場なのですから文句なしです。



ストリーミングで  
音楽を聴くのもいい

VGP審査員 山本 敦

JBLはクラウドファンディングを活用して画期的なオーディオを送り出しています。本機も分離・合体する「完全ワイヤレスリアスピーカー」というユニークな発想が話題を呼び、無事にプロジェクトを成功させました。筆者も試聴機会を楽しみにしていましたが、サウンドは直球勝負の実力派。独自の「MultiBeam」テクノロジーによる没入体験のリアリティは圧巻。音の情報量がとにかく豊富です。無線ネットワーク接続はWi-Fi 6/デュアルバンド対応なので、今後家庭の中に様々な無線対応機器が増えても安定したストリーミング再生が楽しめそうです。AirPlay 2対応なのでiPhoneによる音楽再生とも相性です。